



県議会レポート

編集発行：岩手県議会議員 佐藤ケイ子

事務所：北上市青柳町1丁目5-39 TEL0197-72-7548 fax72-7549

自宅：北上市下江釣子16-154-3 (TEL&fax 0197-77-2126) E-mail: keiko-ktkm@poppy.ocn.ne.jp

ホームページ http://www.sato2007.com/

No.6 2018年(平成30年)6月

ご意見・ご要望等をお聞かせください。今後の政策づくりに生かしてまいります。

岩手日報 平成30年(2018)3月9日 日 報

性犯罪被害相談が増

7 機関連携強化で 県議会予算委

県議会2月定例会は8日、予算特別委員会を再開し、環境生活部と県警本部を審査した。県は相談専用電話「はまなすサポートライン」が2017年度受理した性犯罪や性暴力の相談件数が2月末時点で51件となり、16年度全体の3・6倍に増えたことを説明した。7機関で昨年、ワンストップ支援の連携協定を結んだ効果とみられる。

佐藤ケイ子氏(改革岩手)、斎藤信氏(共産党)、小西和子氏(社民党)が取り上げた。同ラインは被害者支援センターが運営する。相談受け付けは初年度の14年度は14件、15年度は15件、16年度は14件と横ばいで推移してきた。

県と医療機関、県警など7機関は連携協定を結び、

ごあいさつ 2018年6月

社会のモラルを崩す政治でいいんですか？

「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する」と英国の歴史家の格言は、今の日本の政治を的確に表現しています。

森友、加計学園問題での「ソントク」、文書廃棄や改ざんのウソ答弁、官僚処分で決着したつもりでも、矛盾だらけで疑惑の解明にはほど遠い状況です。

更に、自衛隊の日報破棄のウソ答弁、裁量労働制のデータをねつ造。どれか一つでも内閣総辞職に相当するものです。

民主主義の根幹をゆがめ、おごり高ぶる腐敗政権に対し、責任追及を終わらせずに早期退陣を求め、地域から声をあげていきたいと思っています。



県議会予算特別委員会

(平30年3月議会)

復興の先を見すえた明日への一歩予算

平成30年度の当初予算は、大震災津波からの復興と台風10号災害からの復旧・復興に優先的に取り組むと共に、「ふるさと振興」を着実に推進する予算として、9,533億円が提案されました。

3月5日、3月15日の予算特別委員会

当初予算の規模 (億円)	H30年度	H29年度	増減	増減率
総額	9,533	9,797	△264	△2.7%
内震災分	2,849	3,043	△194	△6.4%
内通常分	6,684	6,754	△70	△1.0%

岩手日報 平成30年(2018)3月2日

震災関連は70人減

総務

総務部は、東日本大震災と2016年の台風10号災害への18年度の応援職員は必要数に達している。県が震災関係は17年度より約70人少ない605人、台風関係は、ほぼ今年度と同規模の70人程度となる見通しを示した。

佐藤ケイ子氏(改革岩手)が質問した。

県によると、2月1日現在では、必要数673人に対し、確保数618人で充足率は91・8%となっている。

白井智彦市町村課長は「課長は来年度の確保数は取りまとめている最中とした上で、『例年9割程度の充足率で推移している。引き続き全国の自治体の訪問して、応援職員の必要性を訴えることも形を進めたい』とした。

平成29年度 政務活動費収支報告

県から毎月31万円の活動費が交付され、領収書を添付して精算しました。今後も有効に使用させて頂きます。

(単位：円)

収入	支出
政務活動費 3,720,000	310,000×12か月
調査研究費 510,452	各種議員連盟会費
研修費 137,289	各種研修会参加費、旅費
広聴広報費 1,299,564	県議会レポート印刷郵送費(2回分)
要請陳情等活動費 3,700	特別支援教育県要望等
会議費 81,620	議案説明会等の出席旅費
資料購入費 192,667	図書、新聞
事務所費 469,211	事務所家賃等(50%)
事務費 317,540	事務所電話、複写機等(50%)
人件費 707,200	事務員(50%)
合計 3,719,243	

757円を返還しました。

- 予算特別委員会の質疑項目(佐藤ケイ子)**
- 1 いわて女性活躍支援強化事業(いわて女性活躍推進員の配置、女性活躍企業認定制度の取組)
 - 2 性犯罪等被害者支援事業(ワンストップ支援センター「はまなすサポート」の評価と課題)
 - 3 保育の状況(待機児童と施設整備計画、保育士確保策)
 - 4 社会的擁護自立支援事業と里親委託促進事業(児童養護施設退所者支援を、里親委託拡大方針の課題)
 - 5 公的病院への支援(北上済生会病院等の政策医療補助、移転新築補助)
 - 6 三次元設計開発人材育成事業(いわてデジタルエンジニア育成センターの実績と今後の運営課題)
 - 7 ものづくり産業の集積推進(北上駐在5名の任務と事業費)
 - 8 商工業小規模事業経営支援事業費補助金(商工会議所の補助金確保を)

岩手日報 平成30年(2018)3月13日

6月 県議会一般質問 傍聴ツアー参加者募集

6月議会で一般質問の機会を頂きました。ぜひ県議会傍聴に参加をお願いします。

期 日：6月29日(金)
参加費：1,500円
13:20 江釣子地区交流センター発 →
13:25 江釣子パル(簡易郵便局付近) →
高速 → 14:45 啄木・賢治青春館 →
15:30 ~ 17:30 県議会傍聴 →
18:30 頃 北上着

県政報告会 & 「納涼パーティー」のご案内

と き：平成30年7月20日(金) 午後6時30分
ところ：江釣子地区交流センター(大ホール)
日 程：午後6時~ 後援会江釣子支部総会(和室)
午後6時30分~ 県政報告会
納涼パーティー(会費2000円)
お席の準備の都合上、参加連絡をお願いします。
連絡先(事務所) TEL0197-72-7548 FAX72-7549
皆さまのご参加をお待ちしております

働き方改革一括法案の課題

★誰のための「働き方改革」？ 【労働者のためには真っ赤なウソ！！】

過労死やうつ病等の要因になっている長時間労働を是正し、ワークライフバランス(仕事と家庭の両立)を確保し、子どもを産み育てやすい環境をつくる
ことが目的だったはず。しかし、高度プロフェッショナル制度(残業代ゼロ)導入は、長時間労働の助長が危惧され、「働かせ方改革」と言われるようになった。

★「働き方改革実現会議」とは？ 【アンバランスな委員構成で結論ありき！！】

会議のメンバーは安倍首相が議長となり、関係閣僚と経済界の有識者15名で構成されており、労働者代表は連合会長だけ。「企業にとって柔軟な働かせ方」「生産性向上」の視点が前面に出ている改革案となった。

★「データ改ざん」？ 【原因は官僚の忖度文化？】

裁量労働制の方が残業時間が少ないという厚労省のデータは異常な数値が2割以上もあり、議論の前提が崩れていることも指摘されている。

課題項目	政府案	労働団体や野党などの主張
高度プロフェッショナル制度の創設	年収1075万円以上、金融デューラー、アナリスト、研究職など高度な専門職	「残業代ゼロ法案」「定額働かせ放題」と批判されている。労働時間の規制がなく残業代等も無し。労働時間の把握義務が無く労災認定が難しくなる。過労死遺族から抗議の声が上がっている。高度専門職の基準はあいまい。年収制限は国会を通さず省令で変更できるため一般労働者への拡大が懸念される。
残業時間の上限規制	時間外労働の上限を年720時間、月100時間未満、2～6か月平均80時間に設定	時間外労働の限度は月45時間、年間360時間と規定されているが、繁忙期特例として年間720時間、月100時間まで容認し過労死ラインまで緩和させるのは問題だ。罰則付き上限規制と言いながら大きな抜け穴を作っている。
勤務時間インターバル制度	終業と始業の間に一定の休息時間を確保する制度の普及促進に努める	制度の普及促進することを努力義務とし、実効性が疑われ不十分である。ヨーロッパでは、11時間の休息時間を設けることが義務化されており、日本でも義務化すべき。
同一労働同一賃金の導入	正社員と非正規社員との不合理な待遇格差を是正	ガイドラインや対象労働者、説明義務、労働者派遣の労使協定方式など補強と確認が必要であるが、十分な審議が無く、中途半端で不十分。2020年施行だが中小企業は2021年まで遅らせることとなる。

ケイ子の東奔西走日記

4月21日 連合若手「震災復興＆クラシのソコアゲ」地域フォーラム(盛岡)



達増知事の特別講演

「自立」と「心の復興」をつなぐ雇用を考えようをテーマにフォーラムが開催され、達増知事の特別講演がありました。復興の課題は多いが、ボランティア活動から沿岸地区に定着する若者が以前より増加したことも報告されました。

3名から「私の提言」があり、宮古社協の自立支援事業、釜石の釜援隊の活動、三陸鉄道と地域復興の役割など意義深いお話しでした。

連合の神津会長は、政治の不作為を指摘し、働く仲間が連帯してオールフォーオール(みんなのため)の復興や、格差是正、人間らしさを取り戻す真の働き方改革を呼びかけました。

4月24日 「県民と県議会との意見交換会」(三戸地区合庁)



県議会では県民との意見交換会を実施しており、今回は、三戸市(地域産業振興)と奥州市(一・二・三誘致)で開催しました。

三戸会場では、地域資源を生かした取り組み事例を8名の方が発表しました。

機械製造会社社長、南部せんべいの若社長、ホワイトアスパラの農業者、アパレル会社社長、割烹旅館の若女将、6次産業化に取り組む若者、地域おこし協力隊「つるしびと」の方々が意欲的な取り組みを紹介しました。

地域資源と伝統を守りつつも新手法に挑戦し、同業者連携や異業種連携で成果を上げていました。地域が好きだ、地域貢献をしたい、仲間を増やしたいと意欲的な姿が素晴らしいかったです。

5月10日～11日 自治体議員研修(東京)

▼「性犯罪・性暴力被害者に寄り添う施策を」ワンストップ支援センターを全国に」の講座では、各県に支援センターができ、被害の声をあげる人が多くなったが、不十分なセンター運営の例が紹介された。本県もチェックしなければ...と思いました。

▼超党派の国会議員による「旧優生保護法における強制不妊手術」に地方議員も参加し、各県の情報交換をしました。若手県でも362人の強制不妊手術が行われたと報道もあり、市町村を巻き込んだ問題だったことがわかりました。



5月18日 「アベ政治を許さない」北上市民集会



きたかみ平和フォーラムや野党各党、各種団体21団体が主催し市民約150人が結集しました。大雨の中、森友・加計学園問題、自衛隊日報隠し、セクハラ、文書改ざん問題などに怒りの声があがりました。

集会後は、太鼓やタンバリンを鳴らし「公文書改ざんするな」「安倍内閣早期退陣」「9条改悪許さない」とシュプレヒコールをあげ、にぎやかにデモ行進しました。

5月20日 「平和憲法を守ろう!!」県民総決起集会(盛岡)



社民党の吉川幹事長が講演し、総理関係者の優遇のために、私的諮問会議で決定し、中央省庁はデータを改ざんする始末。野党の結束で安倍政権の暴走を止めよう。若手の野党共闘を評価し、平和の党・働く者の党として社民党の支持拡大を訴えました。

5月20日 西和賀町消防演習

晴天のもと、消防団員約300名と婦人消防協力隊が集合し、消防演習が行われました。小隊訓練やドリル行進など日頃の訓練の成果を見せてくれました。

地域の安心安全のため日頃から訓練され、また、中心的に地域活動を担っている皆さんの姿に感謝です。敬礼!!



5月25日 県政報告会(更木地区)



2月18日にホテルシテイプラザにて県政報告会を開催。

3月29日は和賀地区、5月25日は更木地区、6月14日飯豊地区、6月22日口内地区で意見交換をしています。今後、7月は江釣子地区と黒沢尻北地区の報告会が予定されています。ぜひご参加のうえ、地域の声をお聞かせ下さい。

5月27日 第38回錦秋湖マラソン



公務員ランナーで有名な川内優輝さんをゲストランナーに迎え、北海道や広島県から、91歳の男性、80歳の女性も含めて1900名以上の皆さんが、新緑の錦秋湖畔を疾走しました。ボランティアやお土産販売など、地域の皆さん総出で協力し盛り上げていました。

5月29日 梁川トンネル貫通式



復興支援道路として整備している国道107号の梁川トンネル(1022m)の貫通式が行われました。工事費は46億円(内トンネルは30億円)で、平成30年度末の完成見込みです。急こう配や急カーブが緩和されます。